

社会福祉法人そよかぜの機関紙

第116号

発行2014.1.19

年4回発行



社会福祉法人そよかぜ

羽村市栄町3-3-1

☎042-578-0855

fax.042-578-0466

そよかぜだより

前号の特集『住む』では、居宅介護サービスやグループホームといった、地域で暮らすためのサービスや資源に焦点をあてました。では、「そのようなサービスや資源は、どうすれば利用できるのか?」、「自分の暮らすこの地域には、どんなものがあるのか?」、「サービス利用には、お金がかかるのか?」、「かかるの

であればいくら位か?」などなど、わからないことや聞きたいことばかり……。地域生活をするうえで「困ったこと」や「知りたいこと」があるときにも、『相談する』ということが多くなります。では、どうすればいいか? 教えてくれる所に相談してみましょう。一人ひとりが得られる知識や情報は限られます。特に専門的な内容となると、

すべての人が十分に足りるだけの知識や情報を得ることは不可能かもしれません。そこで頼りになるのが「相談支援機関」や、そこで働く「相談支援専門員」の存在です。今回は、私たちの暮らす地域の相談支援機関の一つである、『**地域活動支援センターI型事業あおば**』にスポットを当てました。

【シリーズ特集 第二弾】 青木岳彦=文(下囲み・P.2-3)
(地域活動支援センターI型事業あおば 係長)

相談する



あおばについて

Q&A

その他の事業

事例

伝えたいこと

地域活動支援センターとは、**創作的活動や生産活動の機会の提供、社会との交流の促進・支援すること**などを、地域の実情に応じて行うことにより、**障害のある方の地域における自立と社会参加を図ることを目的**としています。

あおばでは、**身体に障害がある方を主な対象として、創作的活動と身体機能の維持・向上のための機能訓練等**を日々の主な取り組みとして行っています。“地域の実情に応じた”とあるように、地域活動支援センターは、障害の内容や取り組みの内容によって、それぞれに特徴のある運営を行える事業です。

※地域活動支援センターにはからIIIまでの3類型があり、その類型により職員配置や機能等は異なります。

あおばは、地域活動支援センターI型で、前記の通所機能に加え、専門職員(精神保健福祉士等)を配置し、相談支援事業を併せて行っています。

障害を持つ方の「人と交流できるところに行ってみたい」、「今の心配事をどうしたらいいのか」といった相談にのり、困

っていることの解決をお手伝いすることが、相談支援事業の大切な役割になっています。

※羽村市に居住する障害者の為の地域活動支援センターには、主に身体に障害がある方を対象にした『あおば』の他に、主に精神に障害がある方等への相談や支援を行う『ハッピーウイング』があります。

【具体的な支援内容の例】

- ホームヘルパーやショートステイなど、福祉サービスを利用するためのお手伝いをします。
- 福祉施設や作業所などの紹介、福祉用具の利用について情報提供などを行います。
- 相談内容によっては専門機関を紹介し、連携して問題の解決に取り組みます。
- 権利擁護のために必要な援助や、成年後見制度に関する助言などを行います。
- 家事や生活のこと・人間関係などについての相談をお受けします。
- 同じ障害を持つ仲間(ピア)が、当事者としての立場から悩みごとなどのお話を伺います。

ピアカウンセリング：毎月第四火曜日(精神障害)・毎月第四土曜日(身体障害)

あおばについて

Q&A

その他の事業

事例

伝えたいこと

あおばに寄せられる相談(例)

- Q:** 一人暮らしなので、いつも同じ物ばかり買って食べてしまう。片付けが苦手なので、部屋が散らかってしまい困っている。
- A:** 生活環境の改善を図るため、家事援助サービスの利用の提案やヘルパー事業所との調整を行います。
- Q:** いろいろな場所に出かけたいけど、遠くに一人で行くのは心配。これまで家族が病院に付き添っていたが、高齢になり同行するのが大変になった。
- A:** 外出や通院が困難な方に対して、ヘルパーによる付き添いの提案やヘルパー事業所との調整を行います。
- Q:** あまり使った覚えがないのに、高額な携帯電話の使用料の請求が来てしまった。
- A:** 契約内容を一緒に確認したり、携帯電話の使い方についての提案を行ったりします。場合によっては、同行して携帯会社への問合せを行います。
- Q:** 歩行が困難なので補装具を使っているが、加齢とともに使いづらくなり困っている。使っている車いすが身体に合わなくなってきてしまい、座っているのが辛い。
- A:** 修理や新たな支給のために必要な手続きや、装具の事業者との連絡調整の支援を併せて行います。

- Q:** 行く所がなく、昼間はずっと家にいる。人と交流したり、楽しく過ごせる場所があれば行ってみたい。
- A:** 日中活動のサービスを紹介し、必要に応じて見学の同行や利用申請のお手伝いを行います。
- Q:** 親亡き後の子どもの将来や、財産の管理などが心配。
- A:** 成年後見制度について紹介し、必要があれば利用のための支援を行います。
- Q:** 自分の症状や薬のことを主治医に上手く伝えられないことがある。
- A:** 伝えたい内容を一緒に整理したり、急ぐ必要があれば主治医と直接連絡を取って替わりにお伝えします。

あおばのスタッフミーティングの様子。



「シリーズ特集 第二弾」 相談する

あおばについて

Q&A

その他の事業

事例

伝えたいこと

特定相談支援事業

平成25年5月から、障害のある方が障害福祉サービスを利用する際に必要となる「サービス等利用計画」の作成や、サービス支給決定後のモニタリングなどを行う新たな相談支援事業を運営しています。

※詳細については、平成25年10月号の社協だよりに掲載しておりますので、そちらもご覧ください。

パソコン教室

市内在住の障害のある方を対象に、初級の内容のパソコン教室を行っています。

申込み: 4月上旬(募集は年度ごとに行います)

定員: 概ね10名程度

日時: 毎月第4土曜日・午後2時から4時まで

※毎年4月号の社協だよりに掲載記事を行っております。

福祉機器貸出し事業

羽村市社会福祉協議会の会員で、福祉機器の貸出しが必要になった高齢者や障害のある方に対して、介護保険制度や日常生活用具等給付事業などによる公的な給付を受けられるまでの間、補完的に車いすや介護ベッドの貸出しを行います。

※詳細については、『あおば』にお問い合わせいただくか、羽村市社会福祉協議会ガイドブックをご覧ください。

あおばについて

Q&A

その他の事業

事例

伝えたいこと

プロフィール 60代男性 / 進行性難病による身体障害

CASE 01

相談経路 市役所から、通所サービスにつなげるための調整を依頼され、支援を開始する。

相談内容 元気な頃は友人と小さな会社を経営していたが、病気の発症後しばらくして働けなくなり、自宅にこもる生活となる※1。一人暮らしのため、病気の進行とともに食事や掃除などの家事もままらなくなり※2、身体状況の悪化※3に伴い精神的にも落ち込むことが多くなる※4。そんな状況の中、借家である自宅が老朽化により建て替え工事を行うことになったため、立ち退かなければならなくなる※5。

- 支援内容** ※1 リハビリや入浴サービスを行っている施設を紹介し、手続きなどをお手伝いする。
- ※2 家事援助のヘルパーを提案し、事業所との調整などを行う。
- ※3 身体の状態に合った車いすを使うことを提案し、手続きや業者との連絡などを行う。
- ※4 訪問や電話などによる面談を適時行う。
- ※5 家族や関係機関と連絡を取りながら、新たな住居探すためのお手伝いをする。

プロフィール 50代男性 / 軽度知的障害

CASE 02

相談経路 市役所から家事援助サービスの調整を依頼され、支援を開始する。その数年後、ヘルパー事業所が本人の生活状況を心配し、本人の了解を得たうえで連絡をしてくれる。

相談内容 母親と二人で暮らしていたが、母親が病気で亡くなると、掃除等の家事が滞り、生活環境が悪化する※1。生活費は母親の遺してくれた貯金と年金で賄っていたが、お金の管理も上手いかず、通帳の残金が0になってしまうこともあった※2。それでも年金が入るとすぐに趣味の物を買ってしまい、生活費が足りなくなると不安になるということが繰り返される※3。親族が心配して「近くに引っ越してくるように」と勧めたが、遠方だったため、「住み慣れた土地から離れたくない」※4と誘いを断った。

- 支援内容** ※1 家事援助のヘルパーを提案し、事業所との調整などを行う。
- ※2 成年後見制度の利用を提案し、利用のための手続き等について支援を行う。
- ※3 成年後見制度の利用と併せて、グループホームへ入居し、単身生活に必要な生活能力の向上に取り組むことの提案と必要な支援を行う。
- ※4 グループホームの入居に必要な日中活動のサービスについて、見学の同行を含めた利用までの支援を行う。グループホームへの入居に向けて、家の片付けや引っ越しの手続き等について、サービス調整を含めた支援を行う。

あおばについて

Q&A

その他の事業

事例

伝えたいこと

例 として適切ではないかもしれませんが、安に思っていることがあれば、まずは身近な人にその話を聞いてもらってください。また、本人に困っている様子がない場合、周囲の人から見て「大丈夫なのか？」と思うケースであれば、その人に、通所先の職員や市役所の福祉相談、または『あおば』や『ハッピーウイング』のような相談機関に相談に行くように勧めただけだと思います。

**地域活動支援センター
I型事業あおば**
羽村市栄町2-18-1
(羽村市福祉センター内)
☎042-554-0336
Fax.042-554-0383

明

けましておめでとうございます。皆様には晴れやかな新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

近年、地球的な気候変動の影響からか、国内外にわたり大規模な自然災害が発生しております。伊豆大島の大雨による土砂災害、アメリカ東海岸を襲ったハリケーン災害、フィリピンのレイテ島での巨大台風災害など記憶に新しいところであります。被害に遭われた多くの皆様に心よりお見舞い申し上げます。

なお、昨年一年間を一言で表す漢字は「輪」だそうです。これは災害に伴う「絆の輪(わ)」、オリンピックの日本開催が決定した「五輪の輪(りん)」ということのようです。今年も、法人そよかぜも「輪」の一年にしたいと思います。

さて、私もそよかぜが携わります障害福祉の分野では、障害のある人への虐待や差別の禁止を定めた法律等が順次整備され、去る12月4日の参議院本会議にて多くの関係者の念願であった国連の障害者権利条約の批准が承認されました。これを機に、障害のある人がより一層暮らしやすい世の中になることを願ってやみません。私もそよかぜの各事業は、お陰様をもちまして特に大きな問題もなく概ね順調に推移することができました。ご支援頂きました多くの皆様に、心より厚く御礼申し上げます。本年も昨年同様、地域の障害のある方々の支援に役職員一同誠心誠意努力してまいります。皆様には変わらぬご支援、ご協力をお願いし、新年の御挨拶とさせていただきます。

新年を迎えて

野崎功市

(社会福祉法人そよかぜ理事長)



そよかぜの事務局がある、福祉作業所ひばり園の玄関は、季節によって様々に変化する芸術的なキャンバスです。正月飾りやクリスマス、端午の節句等々、四季を感じながらすごせるよう、玄関を飾っています。

「そよかせコラム」
新聞、雑誌などから拾った雑文

近頃、心に残った言葉、気になる文章など

大学生 A Ⅲ 3年間留学したイスから帰国し、都内の大学に通っている。毎日の通勤ラッシュにも慣れてきた。帰国当初は驚くことばかりで浦島太郎だった。電車の中で老若男女問わずメールをし、ヘッドホンやイヤホンで音楽を聴く光景に驚いた。まるで日光東照宮の「見ざる」「聞かざる」だ、と冷めた目で見ていた。だが最近、彼らの姿を理解できるようになった。大学では皆、「空気を読む」ことばかり考えてなかなか本音を言えない。「聞かざる」が耳を手でふさぐようにヘッドホンで自分の殻に閉じこもる気持ちもわからなくはない。だが、私は現状のままでは嫌だ。「猿の惑星」では困る。もうこれ以上、猿を増やしてはいけないし、早く人間に戻して欲しいと思う。

高校生 B Ⅱ 私は普段、プレーヤーで音楽を聴きながら通学しています。最近のイヤホンは高性能で周りの音も完全にシャットアウトしてくれて一人の世界に入ることが出来ます。

しかし先日、プレーヤーの充電を忘れてしまい、音楽を聴かずに通学しました。電車に乗り、なにか落ち着かずにはいられないと、私の後ろに立っていた母子の会話が聞こえてきました。会話自体はたいしたことはありません。今日はお空が綺麗だねとか、大きな建物がたくさん建っているねなど。でも私はとても新鮮でした。子どもの無邪気な笑い声、お母さんの優しい声、ホームのざわつきや、電車の発車する音でさえもすべてが一つの音楽のように私の耳には聞こえてきました。

最近、音楽を聴きながら通学、通学をする人は私も含めて多くなっています。でもちよつとイヤホンを耳から外して周りの音に耳をかたむけてみてください。日々の雑踏の中に、もしかしたら私たちにとっての癒しの音がみつかるかもしれません。

感想 Ⅱ 「最近の若い連中は…」と、にがにがしくこき下ろすのが年寄りの性ですが、こんなすばらしい若者もいる。

「死」について

アルフォンス・デーケン(ドイツの哲学者) Ⅷ 8人兄弟だったのですが、8歳の時、4歳下の妹が白血病で亡くなりました。治る可能性がなく、自宅で死を迎えた方がいいと父母が考えて家族全員で看護しました。妹は一人ひとりに「さようなら」とあいさつし、「天国でまた会いましょう」といつて息を引き取りました。積極的に死を迎えたのです。生と死を深く考えるきっかけになりました。

死をタブー視すると生の終末期に何に希望を見出したらいいかわからなくなり、延命だけを考えるようになります。そうすると、本人も周りも、つらく苦しくなります。心の準備ができていないのです。教育が必要で、死に関する教育やボランティア活動によって自分が豊かになるだけでなく、もっと温かい社会をつくる事ができると思います。

死 Ⅱ 「最近の若い連中は…」

いんですよ。おれ、こんな句を詠んだの。

《飛んでいいる形で死んで赤とんぼ》

赤とんぼって、死んでも飛んでる形のままでしょう。いいでしょう、死んだことさえ気がつかないで飛び続けているの。

感想 Ⅱ 『やまびこ学校』の無着成恭と聞いて、懐かしく思う人はかなりの年配のはず。僧侶でありながら学校の教師として、日本の教育界に大きな足跡を残しました。存命なら86歳のはずです。

「わたし」の位置

坂井克之(東大准教授)

私たちに、ある映像が見えるのは、映像情報を処理すべく脳の神経細胞が活動するからです。では、映像を見て「わたし」はどこにいますか。

目という窓を通して世界を見ているように感じていますね。「わたし」が目の後ろにいるかのように。

でも、わたしの自我そのものは物質世界には実在しません。視覚や聴覚、体の位置、平衡感覚からの信号を総合することによって、「わたし」が目の奥に存在するように感じられている

のでしよう。

ところが脳の側頭葉と頭頂葉の境界部に障害があると、「わたし」の場所が変わってしまうことが報告されています。自分が身体から抜け出してしまったように感じられるのです。

脳のこの部分で視覚情報と自分の身体の位置情報を伝える信号が合流して「わたし」の位置を計算します。障害で信号のバランスが崩れると「わたし」の位置がずれてしまうのです。「わたし」とは世界を解釈するための虚構にすぎません。この虚構を生み出すメカニズムを脳という物質から明らかにする研究が進んでいます。

感想 Ⅱ 強い自閉症の人の中には、いつも自分の居場所を探すように動いている人がいます。部屋の隅の荷物の後ろとか、トイレの中などに閉じこもります。離れたところに別の自分がいて、本当の自分がどこにいるのかわからないような不安を感じ、狭いところに入ると落ち着くようです。坂井教授の文章でそのメカニズムがよく分かります。つい先日、この症状に有効な薬が発見されたと新聞に出ましたがどうでしょうか。(西園英二)

未知の可能性を秘めた技術

新年を迎え年賀状のやり取りをされた方も多いと思います。昔は版画や毛筆といったようにバラエティーに富んでいたと思います。しかし今は、家庭のプリンターで印刷されたものがほとんどではないでしょうか。このプリンターですが、技術開発がすすみ皆さまもテレビのコマーシャルでご存知の方も多いと思

ますが3Dプリンターなるものが話題となっています。まさしくアイデアを形にできるといった代物です。この3Dプリンターですが、未知の可能性を秘めた新しい技術として幅広い分野から期待されています。むろん福祉の分野でも同様で、早くから研究開発を行っているアメリカでは動く義手や義足を制作するのに3Dプ

コラム「福祉の時をつかむ」

リンターを使った開発がすすめられています。従来、動く義手などは手間と時間がかかり非常に高価なものでした。一方、3Dプリンターを使うことでコストも従来の1/20に抑えられるといったメリットがあります。この新しい技術は、従来のモノづくりの考えを大きく変えるもので様々な場面で期待されるどころです。

ホームページが新しくなりました! <http://soyokaze-hamura.com>

各事業所からのお知らせ



福祉作業所ひばり園

新年あけましておめでとうございます。新年初日、みんなで初詣に行きました。充実した一年を過ごせたことの感謝や、今年も美味しいものをたくさん食べられるようお願いしたりと、様々な想いが飛び交っていました。昨年末には、3年間勤めた職員さんが寿退社しました。いつも笑顔で、礼儀を忘れないステキな職員さんでした。喜ばしいことですが、涙が溢れ、一期一会をあらためて感じた瞬間でした。現在のみんなの期待は、今月末に予定されている新年会です。ボウリングやカラオケ、焼肉と聞いただけでもワクワクします。近年、仕事もたくさんいただき、大変充実した日々の中、リフレッシュ

や息抜きはとても重要です。今年もそのバランスを大事に一年をすごしたいと願うばかりです。

就労移行支援事業では、就職者が出るたびに、就職への意識がより高まり、来月に控えている清掃技能検定への練習にも熱が入っています。今年も活発な就労移行支援事業にしていきます。

リサイクルショップくれよん

新しい年を迎え、店内も衣類や食器等、色変わりし、品物も数多く取り揃えております。各種セールの予定は、ホームページで随時お知らせしております。今年も皆様のお越しをスタッフ一同お待ちしております。

福祉作業所スマイル工房

毎年ご好評いただいております、2月のバレンタイン、3月のホワイトデー用のクッキーは、1月より販売しておりますので、どうぞよろしくお祈いします。スマイル工房のパンとクッキーは羽村市農産物直売所・リサイクルショップくれよん・喫茶いちよう（羽村市福祉センター内、クッキーのみ

販売)にて販売しております。数に限りがございますので、売り切れの際はご容赦ください。

障害者就労支援センター エール

「エール」は、羽村市より社会福祉法人そよかぜに委託された障害者就労支援事業です。羽村市在住の障害のある方を対象に、就職を希望している方や働いている方などからの相談を受け、支援を行っています。

利用時間：月曜日～金曜日、午前9時～午後5時。今年度の第一土曜開所日は、2/1、3/1です。

※ご相談には予約をお願いします。

宿泊訓練施設つくしの家

将来の施設入所やグループホーム入居、地域での自立生活などへの移行を円滑に行うことを目的としています。

グループホームほほえみ館

おかげ様で皆、健康な一年を送ることができました。今年も、利用者、世話人共がんばっていきます。

資源回収のお問合せは「そよかぜ」へ。

編集後記

新年明けましておめでとうございます。今号の特集のテーマは、『相談する』でした。自分の困っていることや、悩みごとを相談するとき、誰に相談するのでしょうか。きっと、その気持ちや思いに寄り添ってくれる、信頼できる人ではないでしょうか。以前、自分の悩みごとを友人に話したとき、「言葉と涙はためちゃダメだよ」と言われて、涙が溢れ、心が軽くなったことがありました。今年もたくさん話して、たくさん笑える一年になりますように。

各事業所の連絡先

社会福祉法人そよかぜ事務局 ☎042-578-0855

福祉作業所ひばり園 ☎042-555-5512

福祉作業所スマイル工房 ☎042-578-2723

リサイクルショップくれよん ☎042-578-2575

羽村市障害者就労支援センター エール ☎042-570-1233

羽村市心身障害者宿泊訓練施設つくしの家 ☎042-579-6849

グループホームほほえみ館 ☎042-578-2875